

ワールドキャンパスインターナショナル
2007 年度プログラム
実施報告書



はじめに ~ プログラム実施の経過説明とお礼 ~

2006 年秋に米国の Up with People (以下、UWP) 本部は、財政上の問題から、予定されていた 2007 年の日本における UWP の活動を中止すると共に、日本オフィス閉鎖とスタッフ解雇を決定しました。このことにより、地域での受け入れにあたって下さってきた方々をはじめ、ご協力頂いてきた大変多くの個人・法人の皆様にご心配とご迷惑をおかけ致しました。

同時に、2007 年に UWP が訪問を予定していた日本国内各地の関係者の皆様方からは、既に多くの組織や人々を巻き込んで進捗していた受け入れ事業の中止がもたらす問題は深刻であり、この事態を何とかしてほしいという切実な声を多数頂戴いたしました。

こうした経緯の中で、1996 年以来続いてきた活動の原点や意義を顧みて、UWP の空白を埋めるという一時的な地域の要望だけでなく、時代の流れで変化している社会的ニーズにしっかりと向き合ったプログラムが必要と考え、多くの方々のご助言やお力添えも賜わって、非営利で教育活動を行う新団体 World Campus International, Inc. (以下、WCI) を設立致しました。

新団体設立の正式決定後、約半年間の準備期間を経て、誠に多くの皆様からの多大なるご支援・ご協力により、本年 7 月 20 日より 3 ヶ月間の初年度ツアーを実現することができました。ここに改めて心から感謝を申し上げる次第です。

今年度は、人的・資金的・時間的制約条件が厳しい中で、これまでの UWP でのツアー運営上の経験や知識を活用できたことは大いに有効だった一方、プログラム開始の背景や最小限の実施体制などから、WCI が人材育成とコミュニティ・エンパワーメントの双方を目的としていることについて参加者や地域の方々に伝えきれなかったという反省があります。

しかしながら、地域でも新しいプログラムの方向性や具体的な要素について多くの共感や賛同が得られ、WCI のコンセプトが時代のニーズに合っていることが確信できました。

来年は、地域との密接な連携による体制づくりと調整事項等の体系化を急ぐとともに、専門性のある人材確保とネットワーク強化、また、それらの基本としての資金調達などを重要な課題と捉え、WCI の目的達成に向け、さらなるプログラムの充実と事業の継続性確保に全力で取り組む所存です。

今後とも、当団体の趣旨と目的に是非ご理解を賜り、World Campus International, Inc. に対する皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人ワールドキャンパスインターナショナルインコーポレーティッド
理事長 西村紀公

<目 次>

はじめに ～プログラム実施の経過説明とお礼～

1．2007年プログラムの全体概要

(1) 全体スケジュール	1
(2) 参加者	1
(3) プログラムの特徴	2

2．各都市別の活動概要

(1) 長野県上田市	3
(2) 広島県広島市	4
(3) 長崎県大村市	5
(4) 熊本県熊本市	6
(5) 奈良県宇陀市	7
(6) 大阪府吹田市	8
(7) 愛知県豊田市	9
(8) 東京都多摩市	10
(9) 茨城県取手市	11
(10) 茨城県水戸市	12

3．今後に向けた全体的な課題

(1) 参加者	13
(2) 地域コミュニティ（実行委員会等）	13
(3) プログラム	14
(4) スケジュール	14
(5) その他（オペレーション等）	15

参考資料

- ・ 参加者リスト
- ・ 地域実行委員会（代表）リスト
- ・ スタッフリスト
- ・ 協力企業・団体
- ・ 新聞記事

1. 2007年プログラムの全体概要

(1)全体スケジュール

- ・ プログラム開始の経緯から、UWPを受け入れ予定だった都市を対象としたため、その計画を考慮し、ツアー期間は夏から秋にかけて3ヶ月間とした。
- ・ その上で、参加者が参加しやすいよう、期間を3分割し、参加費もそれに応じて設定した。

第1セッション：

長野県上田市（7月20日～8月4日、15日間） オリエンテーション含む

広島県広島市（8月4日～8月12日、8日間）

長崎県大村市（8月12日～8月24日、12日間） 20日から第2セッション

第2セッション：

熊本県熊本市（8月24日～9月1日、8日間）

奈良県宇陀市（9月1日～9月8日、7日間）

大阪府吹田市（9月8日～9月18日、10日間） 13日から第3セッション

第3セッション：

愛知県豊田市（9月18日～9月24日、6日間）

東京都多摩市（9月24日～10月1日、7日間）

茨城県取手市（10月1日～10月8日、7日間）

茨城県水戸市（10月8日～10月15日、7日間）

(2)参加者

- ・ 計15カ国から39人（第1セッション28人、第2セッション28人、第3セッション22人）が参加した。
- ・ 出身国は、アメリカ、インドネシア、イタリア、ウガンダ、ウズベキスタン、オランダ、カタール、カナダ、中国、ドイツ、日本、ノルウェー、パキスタン、フィンランド、ベルギー
- ・ リクルーティングは、担当ジェネラルマネジャーがアメリカ及びドイツ、ベルギーの大学等を訪問し、プレゼンテーションを行ったほか、UWP日本人同窓生の協力を得て日本国内での説明会を開催した。
- ・ また、これまで培ってきた世界中のボランティアネットワーク（各国20名以上）によるリクルーティングも行った。
- ・ ウガンダやウズベキスタンなど、HPを通じて申し込んだ参加者もいる。
- ・ 日本のみをフィールドとするプログラムのため、日本に関心のある参加者のみで構成され、日本語を話せる参加者もいた。
- ・ 一般応募の日本人のほか、名古屋外国語大学との提携により、第2セッションで4名の日本人学生の参加が得られた。

- ・ 平均年齢は 23 歳前後だが、年齢の上限を設けていないため、19 歳から 47 歳までの幅広い年齢層からの参加が得られた。

(3) プログラムの特徴

- ・ **ホームステイ**：一般家庭への宿泊による、参加者・地域住民の双方が互いの生活・文化に直接触れる体験を通じた異文化理解（日本人学生にとっても貴重な“異文化”体験）。
- ・ **言語と異文化学習**：ツアー中の公用語としての日常的な英語でのディスカッションなどの時間、非日本人に対する日本語学習カリキュラムによる実践的な言語トレーニング、ゲスト講師によるコミュニケーション能力向上などのためのレクチャー。
- ・ **地域理解・貢献活動**：地域実行委員会による地域特性を踏まえた企画（各種学校や施設への訪問や地域活動への参加など）参加者と地域住民の協働活動を通じた地域課題に対する相互理解、自分と社会を見つめ直す機会の提供。
- ・ **“ありがとうイベント”**：地域の実行委員会やホストファミリー、地域活動先などの関係者を招いての世界共通のコミュニケーション手段である音楽やダンスを用いた参加型イベント（チームビルディングの一環としてツアー中に参加者が創り上げる共同プロジェクト）。



2. 各都市別の活動概要

(1) 長野県上田市

スケジュール

日付	概要
7月20日(金)	成田空港到着 上田市へ移動(バス)
21日(土)	休日
22日(日)	オリエンテーション
23日(月)	"
24日(火)	小中学校訪問
25日(水)	ありがとうイベント準備、ゲスト講演：本間正人氏
26日(木)	"
27日(金)	"
28日(土)	" 上田わっしょい(祭り)
29日(日)	ホストファミリーデー
30日(月)	市教育長講演・学校訪問
31日(火)	ありがとうイベント準備
8月1日(水)	丸子地域の保育園訪問、知的障害者通所施設訪問
2日(木)	ありがとうイベント
3日(金)	休日
4日(土)	広島市へ移動

ハイライト

テーマ：「教育」

上田市の教育長から日本の教育システムについてのレクチャーを受けた上で、グループに分かれ、丸子地域のすべての保育園、幼稚園、小中学校での交流を行った。訪問後のディスカッションでは、各国の教育システムの違いに加え、現在、日本で社会問題化している“いじめ”について真剣な議論が行われた。

- ・ 地元の夏祭り「上田わっしょい！」に参加し、多くの学生が初めての日本の伝統的行事の体験を楽しんだ。
- ・ 他の都市の倍の2週間の滞在のうち、1週間はWCIのプログラム及び日本での生活・文化に関するオリエンテーションを行った。



(2) 広島県広島市

スケジュール

日付	概要
8月4日(土)	移動(上田市)
5日(日)	原爆資料館見学、広島市立大学学生との交流
6日(月)	平和記念式典出席、鐘楼流し参加 宮島厳島神社
7日(火)	休日
8日(水)	原爆記録映画鑑賞、被爆者の体験談
9日(木)	マツダ工場見学
10日(金)	ありがとうイベント
11日(土)	ホストファミリーデー
12日(日)	大村市へ移動

ハイライト

テーマ：「平和」

8月6日の平和記念式典に列席できたことの印象は大変強く、また、その後、原爆資料館で映像等の記録を見た上で、被爆者“語り部”の話を伺えたことは学生に強い問題意識や感情を呼び起こした。引き続き、学生の主導により、アフリカ、中東の現状についてプレゼンテーションとディスカッションがあり、歴史としての戦争や平和ではなく、現在の課題として、我々一人ひとりが考える必要のある身近な問題として捉えることができた。

- ・ 日本三景の一つである宮島への観光は、日本の伝統建築や美しい風景として、多くの学生が楽しんだ。



(3)長崎県大村市

スケジュール

日付	概要
8月12日(日)	移動(広島市)
13日(月)	自国文化紹介(ドイツ)等 WCIタイム、ウェルカムイベント
14日(火)	長崎原爆資料館訪問、被爆者の体験談、 大学生とのディスカッション
15日(水)	休日
16日(木)	大村ボートレース場見学、スポーツ活動(弓道等)
17日(金)	大村市65周年記念イベント、大村市に関する講演
18日(土)	少林寺拳法体験
19日(日)	かっぱ祭り 午後は自由行動
20日(月)	休日
21日(火)	知的障害者施設「きぼうの里」訪問
22日(水)	東彼杵町、1日キャンプ
23日(木)	ときわ保育園訪問
24日(金)	熊本市へ移動

ハイライト

テーマ:「福祉」

知的障害者の入所施設「きぼうの里」(諫早市)への訪問は、障害者と直接交流する機会がなかった多くの学生にとって偏見や先入観が取り除かれる“気づき”の機会となった。また、身体障害のある学生も含まれていたため、自国との違いなどについて具体的に考えることもできた。

- ・ 大村市に関する講演では大村市文化振興課の方からキリスト教が日本に伝わった由来などについてレクチャーをいただき深いレベルで地域学習ができた。
- ・ 実行委員の一人が所属する少林寺拳法の道場において、護身術としての格闘技の体験を行ったほか、学生は中国武術やブラジルのカポエラなどを披露した。



(4)熊本県熊本市

スケジュール

日付	概要
8月24日(金)	移動(大村市)
25日(土)	水俣病資料館訪問、水俣病患者の体験談、エコタウン訪問
26日(日)	ホストファミリーデー
27日(月)	リデル・ライト両女史記念館(ハンセン病)、 慈恵病院(こうのとりのゆりかご)
28日(火)	休日
29日(水)	九州学院高校訪問
30日(木)	熊本学園大学、熊本大学の学生とのディスカッション
31日(金)	ありがとうイベント
9月1日(土)	宇陀市へ移動

ハイライト

テーマ:「いのち」

“先進”国の一つの側面として、人間の作り出した公害の実態について実際の被害者の体験を伺うとともに、それを克服し、また、環境保全に対して一人ひとりができることを実践している精神と技術を知ることができた。また、ハンセン病施設への訪問や、日本で議論を呼んでいる“赤ちゃんポスト”についての創設者(病院長)の話を通じて、表面的な知識や理解ではなく、人間の生の尊厳を考える機会となった。

- 熊本大学、熊本学園大学の学生とのディスカッションを行い、日本人の国民性や暮らし、環境や社会保障などの社会問題に関して、同世代の考え方や意見を交換した。



(5) 奈良県宇陀市

スケジュール

日付	概要
9月1日(土)	移動(熊本市)
2日(日)	ゲスト講演：坂本達氏 午前は自由行動
3日(月)	ウォークラリー、ディスカッション「世界の宗教」
4日(火)	室生寺訪問、元気村訪問・工芸体験、文化紹介
5日(水)	室生園老人ホーム・小学校訪問、仏教講演
6日(木)	東大寺、奈良市見学
7日(金)	ありがとうイベント
8日(土)	ホストファミリーデー
9日(日)	吹田市へ移動

ハイライト

テーマ：「宗教」

国宝の室生寺で特定の機会しか見ることのできない 7 世紀に作られた仏像や奥の院を鑑賞させて頂いた上で、ご住職からの講話を伺い、仏教について、また、それぞれの宗教について考える機会を持つことができた。

- ・ 6 年前に廃校となった小学校を活用した「室生元気村」で、モノづくりを通じた地域活性化を実現している職人や芸術家の皆さんとともに、工芸体験を楽しんだ。
- ・ 緑に囲まれた中で、ウォークラリーを行い自然の大切さを感じることができた。



(6)大阪府吹田市

スケジュール

日付	概要
9月9日(日)	移動(宇陀市)
10日(月)	吹田市立博物館(タイプカプセル) 講演
11日(火)	企業訪問(大幸薬品、三星ダイヤモンド、ミラクルスリー、淀川ヒューテック、アサヒビール)
12日(水)	" (ダスキン、サンリバー、紀州製紙、ネオマテリアル)
13日(木)	学校訪問、国立民族学博物館
14日(金)	ありがとうイベント
15日(土)	千里金蘭大学と関西大学の学生との交流
16日(日)	70Expo'07 イベント参加
17日(月)	ホストファミリーデー
18日(火)	豊田市へ移動

ハイライト

テーマ:「CSR(企業の社会的責任)」

企業都市としての特徴を活かし、学生はいくつかのグループに分かれて、大幸薬品や淀川ヒューテックなど、数多くの企業を訪問し、企業活動や地域との関わりについて説明を伺い、議論する機会を持つことができた。

- ・ 1970年の大阪万博を記念した市民団体の企画による“70EXPO'07”という吹田市立博物館でのイベントに参加させて頂き、日本文化や料理などを通じた大学生や地元の人々との交流を深めた。



(7)愛知県豊田市

スケジュール

日付	概要
9月18日(火)	移動(吹田市)
19日(水)	トヨタ、オイスカ(NGO)、あすて、三好町訪問
20日(木)	トヨタ工場、トヨタ博物館見学、大学生とのワークショップ
21日(金)	休日
22日(土)	ホストファミリーデー
23日(日)	ありがとうイベント
24日(月)	多摩市へ移動

ハイライト

テーマ：「グローバル・ビジネス」

トヨタ自動車(株)の工場を訪問し、環境に配慮した最新の製造工程を見学した上で、トヨタの教育担当の方の協力により、トヨタの製造システムがどのように機能しているのか、ロールプレイング形式のシミュレーションを体験することができた。また、PR担当の方との意見交換も行い、トヨタの国際的な成功について理解を深めることができた。

- ・ 外国籍市民の多い豊田市として力が入られている国際協力について、農業技術・農村開発分野の国際 NGO のオイスカを訪問し、農業実習の体験および国際協力に関する意見交換を行った。
- ・ 名古屋外国語大学の学生とともに、近隣の三好町で水上ボロや野点を体験した。



(8)東京都多摩市

スケジュール

日付	概要
9月24日(月)	移動(豊田市)
25日(火)	メトロポリタン“発見”ツアー
26日(水)	学校訪問、発見ツアーのまとめ
27日(木)	休日
28日(金)	ありがとうイベント
29日(土)	市民交流イベント、発見ツアーまとめのプレゼンテーション
30日(日)	ホストファミリーデー
10月1日(月)	取手市へ移動

ハイライト

テーマ：「大都市（東京）観察」

多摩市にある中央大学の国際交流サークル等の学生の協力を得て、5つのテーマ別ツアー（原宿・表参道、渋谷・下北沢、丸の内・新宿、浅草、秋葉原）を設定し、住民としての実行委員、東京の大学生、世界各国から集まった学生の視点から、大都市東京のさまざまな側面を観察し、発見したことがらを全体でシェアした。

- ・ 市民との交流イベントでは、中央大学のジャズ研究会、市民の和楽器サークルの演奏を交え、交流を行った。



(9) 茨城県取手市

スケジュール

日付	概要
10月1日(月)	移動(多摩市)
2日(火)	日本の商店街および取手市での活動についてブリーフィング
3日(水)	取手アート巡り、ワールドストリート準備
4日(木)	ワールドストリート開催(大師通り商店街)、取手のまちづくりについてのディスカッション
5日(金)	休日
6日(土)	ありがとうイベント
7日(日)	ホストファミリーデー
8日(月)	水戸市へ移動

ハイライト

テーマ:「アートで街おこし」

全国的な問題となっている商店街の活性化について、地元のボランティア活動組織等の協力を得て、取手市で行われているアートを活用したまちづくりプロジェクトの概要を伺い、その一環として駅前商店街で小学生や障害者などとの交流活動を実施し、地元の人たちに商店街をPRする機会を持った。また、その後のディスカッションを通じて、今後のまちづくりについて、各国から参加している学生の視点から提案を行った。

- ・ 多摩市からの移動の過程で、東京のエクソンモバイル(有)を訪問し、国際的な事業展開の概要について何うとともに、35歳以下の社員の方たちと交流・意見交換を行った。



(10)茨城県水戸市

スケジュール

日付	概要
10月8日(月)	移動(取手市)、ウェルカムパーティ
9日(火)	授業参観、茨城大学学生とのディスカッション
10日(水)	授業準備、東海原子力見学
11日(木)	チャレンジ授業、大成女子高校生徒とのディスカッション、 ツアー総括ミーティング
12日(金)	ありがとうイベント、ツアー・バンケット
13日(土)	茨城大学附属小50周年式典、お別れパーティ、 ツアー総括ミーティング
14日(日)	ホストファミリーデー
15日(月)	成田空港解散

ハイライト

テーマ:「教育」

国立茨城大学附属小学校の50周年記念企画として、学生が一人ずつ学級を受け持ち、45分の“チャレンジ授業”を行うとともに、50周年記念式典でのパフォーマンスを行った。ツアー開始時期から学生の出身国について学ぶなど、楽しみに待っていてくれた児童たちと十分に時間を取ったプログラムができ、各学生の関心や持ち味を活かした授業は大変好評だった。

- ・ 50周年記念式典のほか、ありがとうイベントの会場となった県立文化センターは1700人収容の大きなステージであり、学生たちにとっても貴重な経験ができた。



3. 今後に向けた全体的な課題

(1)参加者

- ・ 20～30名の規模は“クラス”と呼ぶにふさわしく、プログラムの効果もわかりやすく、オペレーション上も適当であった。反面、1人ひとりのキャラクターやムードが全体に影響しやすいため、チームビルディングやモチベーションを維持向上する活動を充実させていきたい。
- ・ 年齢に上限を設けなかったことで、年齢の違いからくる考え方の違いなども見ることができたが、参加ニーズをより正確に捉えていくために、学生勧誘時の面接を充実させていきたい。
- ・ 日本のみのツアーのため、元々日本に関心のある人材が集まり、日本について知りたいという姿勢は地域でも評判が高かった。ただし、関心があるだけ、その方向性も多様であり、各自が WCIの目的とつなげていけるよう事前確認の精度を高めたい。
- ・ 日本のみの滞在、少ない人数、地域との協働による企画など、基本設定が異なる中で、今回は UWP の補完という意味合いもあり、その要素を踏襲する部分（オペレーションのノウハウなど）も多かったため、WCIとしての目的が参加者や地域に伝わりにくかった面がある。WCIの目的の十分な共有が不可欠である。
- ・ なれないホームステイやタイトなスケジュール、プログラム期間の長さなどから疲労もあり、一部参加者のツアー終盤の地域における態度について地域側から問題指摘を受けた。日本社会で重要な価値観などを十分に伝えていきたい。

(2)地域コミュニティ（実行委員会等）

- ・ 地域に企画立案とスケジュールリングの主体性を持って頂いたことについては、地域の状況に合わせて柔軟に検討することができたとして地域の評価は高かった。その反面、WCIの目的や参加ニーズとの乖離が見られた。ロジ等の実務を含め、地域との連携体制を強化していきたい。
- ・ 一方で、新たな企画立案に注力した地域では、LOC内の結束力の向上や、大学や地元活動者などの外部協力者との関係の強化が見られ、今後の展開に大きな期待が持てた。ただし、企画内容には課題が残り、今後も企画立案へのファシリテーション等を充実していきたい。
- ・ 地域側が行政主体である場合、資金調達や訪問先の調整などにおいては問題が少ないが、かなり早い段階からの情報提供や各種手続きが必要となる。一方で、民間主体である場合、現場での柔軟性や今後の展開などにおいては許容量が広がるが、資金や組織の面での継続性に課題がある。関係者全体での目的の共有とともに、地域側の体制に合わせた対応が必要である。
- ・ 資金調達においては、行政等からの助成のほか、独自の財源確保の方法を確立しつつある地域があり、そのノウハウを他の地域にも拡張していくことが期待でき

る。

- ・ プログラム全体として一貫性のある企画内容の確保に加えて、こういった事業運営のノウハウ等についても、地域の横の連携を強める方策を検討し、コミュニティ・エンパワーメントを実現していくことが課題である。

(3)プログラム

- ・ WCI の目的の一つであるコミュニティ・エンパワーメントの一環として、地域とともに企画立案・スケジュールリングを行ったことにより、地域の主体性の萌芽が見られた。ただし、地域の体制や経験等によって違いがあるため、今後はファシリテーション等を充実していきたい。
- ・ 一方、上記のことや参加ニーズの多様性などから、参加者内部向けのプログラムの成果に課題が残った。ツアー全体の進行段階に応じ、今回参加者に大変好評だった外部講師によるレクチャーを計画的に組み入れるなどして、全体に一貫性のあるプログラムの充実を図る必要がある。
- ・ 日本語カリキュラムは、日本に関心のある参加者にとって期待も大きく、今後も充実が可能・必要であるが、各地域で教師役を手配する方法では、学生の習得度合いなどにもばらつきがあり、累積的な効果が薄れる。教材の充実とともに、新たな実施方法を検討したい。
- ・ ありがとうイベントは、参加型で各地域で好評だった。WCI の目的に合った内容のものとして、さらなる充実が可能であり、そのためには、参加者に対するプリーフィングの徹底も重要である。
- ・ 今回は名古屋外国語大学から 4 名、早稲田大学から 2 名の学生の参加が得られたが、外国人の目から見た日本や文化的背景の違う考え方などは日本人学生にとっても大変有益だったという評価を大学側より頂いた。今回も多くの地域で見られた地元大学との協力を含め、日本の大学との協力関係を強化していきたい。

(4)スケジュール

- ・ プログラム開始の経緯から、今回は 3 ヶ月間のツアーだったが、参加ニーズ、地域のコーディネーション等を考え合わせると、2 ヶ月程度が適当か。
- ・ 夏期ツアーの場合、参加者が日本の暑さになれていないことやツアーの進行段階による疲労感を鑑みた休日設定など、無理の少ないモデル的な日程設定を検討することが重要である。
- ・ 今回は準備期間が短く、ツアーの詳細確定が直前だったため、各地域におけるスケジュールも現場での変更が多く、時間の使い方が効率的でない場面が見られた。できるだけ詳細に地域と調整できるような体制づくりが課題である。
- ・ 今回は地域活動主体のスケジュールとなったため、チームビルディングや活動の振り返りなど、参加者内部での消化の時間が不足した。教育プログラムとしての

充実を図るため、地域活動との時間配分の良好なバランスが必要である。

(5)その他（オペレーション等）

- ・ 健康問題や事故など、大きなトラブルもなく、ツアーを終了できた。引き続き、リスク管理に十分に留意していくことが重要である。
- ・ 日本の夏の暑さや湿気に慣れていないメンバーもいることから、しっかりと体調管理を考えて活動内容や時間調整などをする必要がある。
- ・ 財務的な理由などから、スタッフもホームステイでお世話になった地域もあったが、日常業務の処理や緊急対応などの観点からホテル滞在を計画的に設定することも重要である。
- ・ 盆休みにかかった地域以外では、参加者人数も適当であり、ホストファミリー集めにはあまり問題がなかったという評価を頂いた。一方で、参加者情報の確定が直前になったことに対する問題指摘も多く、地域側との情報共有の仕組みやルールについて改善の必要がある。
- ・ 全ての課題の基本にあることの一つとして、今回はスタッフの数が不足した。内部での人材育成に加え、外部人材との協力のネットワークの拡大などを進め、スタッフを充実していきたい。

参考資料

参加者リスト

	氏名		出身国	セッション
1	Parker Kellen	パーカー ケレン	アメリカ	1,2,3
2	Sairam Moore	サイラム ムーア	アメリカ	1
3	Cody Parmenter	コーディ パーメンター	アメリカ	1,2,3
4	Nick Zendejas	ニック ゼンデジャス	アメリカ	1
5	Vito Corciulo	ヴィート コルチウロ	イタリア	1,2,3
6	Ivan Ditya	イファン ディッチャ	インドネシア	2,3
7	Robert Kibaya	ロバート キバヤ	ウガンダ	1,2,3
8	Harriet Zawedde	ハリエット ザワッデ	ウガンダ	1,2,3
9	Gairat Djuraev	ガイラート デュラエフ	ウズベキスタン	1,2,3
10	Elyor Sobirov	エルヨア ソピロフ	ウズベキスタン	1,2,3
11	Bjorn Jurcka	ビョーン ユルカ	オランダ	1,2,3
12	Lisa Bseiso	リサ ブゼイゾ	カタール	1
13	Sean Cullen	ショーン カレン	カナダ	1,2,3
14	Charles Farrell	チャールズ ファレル	カナダ	1,2,3
15	Jen Wilkie	ジェン ウィルキー	カナダ	1,2,3
16	Mary Ma	マリー マー	中国	1
17	Lisa Wang	リサ ワン	中国	3
18	Ying Wang	イン ワン	中国	3
19	Lang Xu	ラン シュウ	中国	3
20	Eva Bergel	エヴァ ベアゲル	ドイツ	1
21	Johanna Ditsch	ヨハナ ディッチ	ドイツ	1
22	Lena Laupus	レーナ ラウプス	ドイツ	1,2,3
23	Marie Mainitz	マリー マイニッツ	ドイツ	1
24	Casper Schwalbe	カスパー シュワルベ	ドイツ	1,2
25	Kumiko Aoki	青木久美子	日本	1,2,3
26	Maho Kobayashi	小林 真帆	日本	2
27	Ayano Mitsukuchi	三ツ口 絢乃	日本	2
28	Masumi Nakae	中江 真澄	日本	2
29	Yusuke Niwa	丹羽 祐介	日本	1,2
30	Kaori Noda	野田 香織	日本	1,2,3
31	Hiroyuki Saito	斎藤 寛幸	日本	2
32	Nao Tsunemi	常見 奈央	日本	1,2
33	Anders Bogsnes	アンダース ボグスネス	ノルウェー	2
34	Shahid Kahn	シャヒッド カーン	パキスタン	2
35	Mikko Miinalainen	ミッコ ミナライネン	フィンランド	3
36	Tiia Tokola	ティア トコーラ	フィンランド	2,3
37	Marlies Holvoet	マリーズ ホルヴォー	ベルギー	1,2,3
38	Gita Maes	ギータ マエズ	ベルギー	1,2,3
39	Kim Merckaert	キム メッカート	ベルギー	1,2,3

地域実行委員会（代表）リスト

	都市名	受入れ組織	代表者
1	長野県上田市	ワールドキャンパス上田実行委員会	ビルレットィ
2	広島県広島市	財団法人ひろしま国際センター	本郷佳加
3	長崎県大村市	NPO 法人アップウィズ大村	大隈和博
4	熊本県熊本市	WCI2007くまもと実行委員会	前田香代子
5	奈良県宇陀市	室生地区国際交流村実行委員会	北森義卿
6	大阪府吹田市	ワールドキャンパス吹田実行委員会	三原満里
7	愛知県豊田市	財団法人豊田市国際交流協会	古橋三吉
8	東京都多摩市	ワールドキャンパス多摩実行委員会	蓮池 守
9	茨城県取手市	とりでホストファミリーの会	飯村淳子
10	茨城県水戸市	茨城大学教育学部附属小学校 WCI 担当	高橋明子

スタッフリスト

	担当	氏名	備考
1	総括	西村紀公	NPO 法人理事長
2	ジェネラルマネジャー	ボブ・スロート	学生リクルート担当
3	ジェネラルマネジャー	金井貴美	地域対応担当
4	プログラムマネジャー	相川千絵	
5	プロダクションマネジャー	ベン・ハフォード	

全国ツアー協力企業・団体

日本コカ・コーラ株式会社

各訪問地協力企業・団体

	都市名	企業・団体名
1	上田市	ワールドキャンパス上田実行委員会 上田市、上田市教育委員会、NHK 小諸通信部、信州民報、信濃毎日新聞
2	広島市	財団法人ひろしま国際センター 広島市、広島市企画総務局国際平和推進部、ヒッポファミリークラブ西日本
3	大村市	NPO 法人アップウィズおおむら 大村市、大村市教育委員会、大村市事業局管理局、東彼杵町、 東彼杵町教育委員会、長崎県原爆資料館、財団法人長崎平和推進協会、 大村市山岳会、大村市バトミントン協会、大村市弓道協会、常盤保育園 大村市少林寺協会 西大村支部、九州かっぱサミット in おおむら実行委員会、 社会福祉法人ことの海会 “きぼうの里”
4	熊本市	WCI2007くまもと実行委員会 熊本県、熊本市、熊本市国際交流会館、熊本市市民会館、熊本市産業文化会館、 熊本市青少年センター、熊本市総合女子センター、YMCA、TKUテレビ熊本、 KKT熊本県民テレビ、熊本日々新聞、九州学院、慈恵病院、 リデルライト両女史記念館、 湯の児スペイン村福田農場、水俣市、水俣病患者連合会、エコボ水俣、熊本大学、 熊本学園大学、熊本県立大学、崇城大学、芳田園、トラベリッチ株式会社、 西日本日中旅行社、南九州コカ・コーラボトリング株式会社
5	宇陀市	室生地区国際交流村実行委員会 宇陀市、室生寺、室生西小学校、室生東小学校、奈良新聞、榛原テレビ、 室生ふるさと元気村
6	吹田市	ワールドキャンパス吹田実行委員会 吹田市、吹田市教育委員会、吹田商工会議所、大阪ユネスコ協会、 国立民族学博物館、日本万国博覧会記念機構、 吹田市立博物館'07EXPO70 市民委員会、千里竹の会、千里金蘭大学、関西大学、 大阪大学、吹田市立東佐井寺小学校、吹田市立佐井寺小学校、大幸薬品株式会社、 三星ダイヤモンド工業株式会社、淀川ヒューテック株式会社、 株式会社ミラクルスリーコーポレーション、紀州製紙株式会社、 株式会社サンリバー、 NEOMAX マテリアル株式会社、株式会社ダスキン、味舌陶房、 アサヒビール株式会社、 近畿コカ・コーラボトリング株式会社

7	豊田市	財団法人豊田市国際交流協会 トヨタ自動車株式会社、豊田市、愛知県三好町、財団法人あすて、 財団法人オイスカ中部日本研修センター、 南山大学、愛知県立大学、名古屋外国語大学
8	多摩市	ワールドキャンパス多摩実行委員会 多摩市、多摩市教育委員会、多摩市国際交流センター、東京多摩プロバスクラブ、 新都市センター開発(株)「いきいきわくわく夢プラン」応援企画 中央大学国際交流センター、多摩市立東落合小学校、多摩市立竜が峰小学校、 関戸公民館、パルテノン多摩、新都市センターホール、中央大学、 エクソンモービル(有)
9	取手市	とりでホストファミリーの会、 取手市教育委員会、取手市国際交流協会、NPO 法人取手ぶるく、 駄菓子屋よいこ、東京芸術大学 0 研、取手市井野小学校、 PLS スマイルクラブ“ほほえみ”、株式会社新六、岡部商会、 有限会社小沼新聞店舗、取手商工会女性部、 児童合唱団サークル“ハーモニー”、坂東太鼓の会
10	水戸市	ワールドキャンパスIN水戸、 茨城大学教育学部附属小学校、日本原子力研究開発機構、茨城大学、 大成女子高校